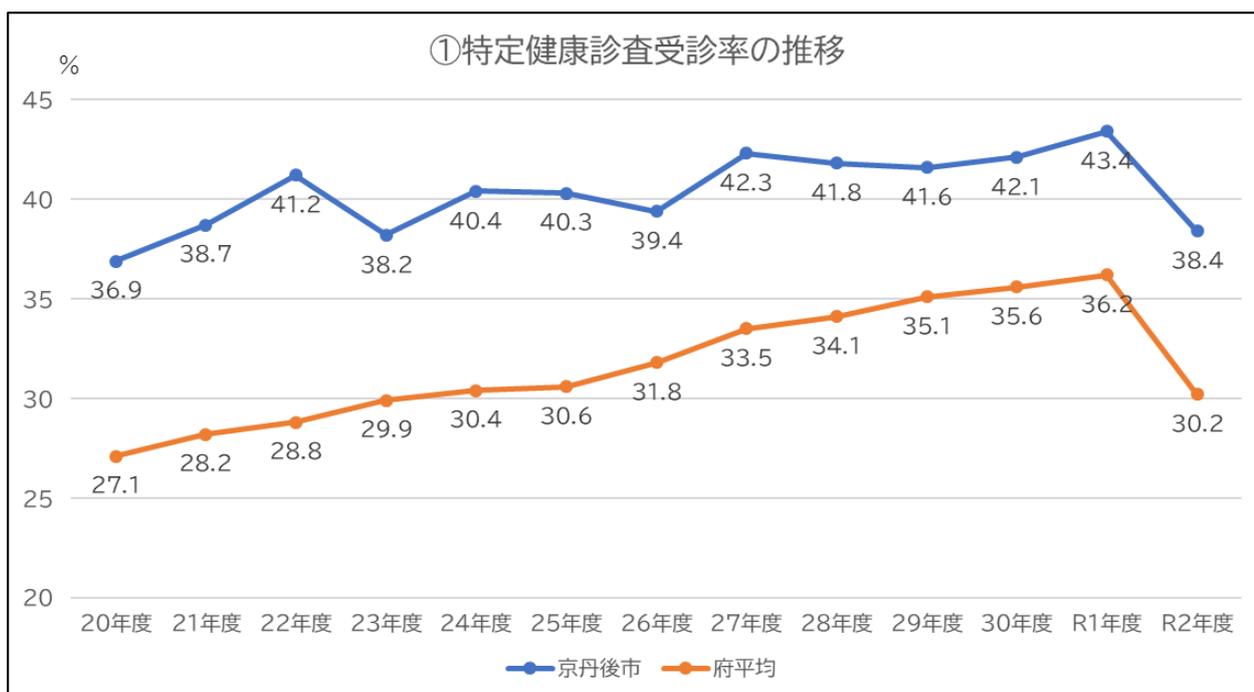


## I 特定健康診査及び特定保健指導について

(対象者：国民健康保険被保険者 40～74 歳)

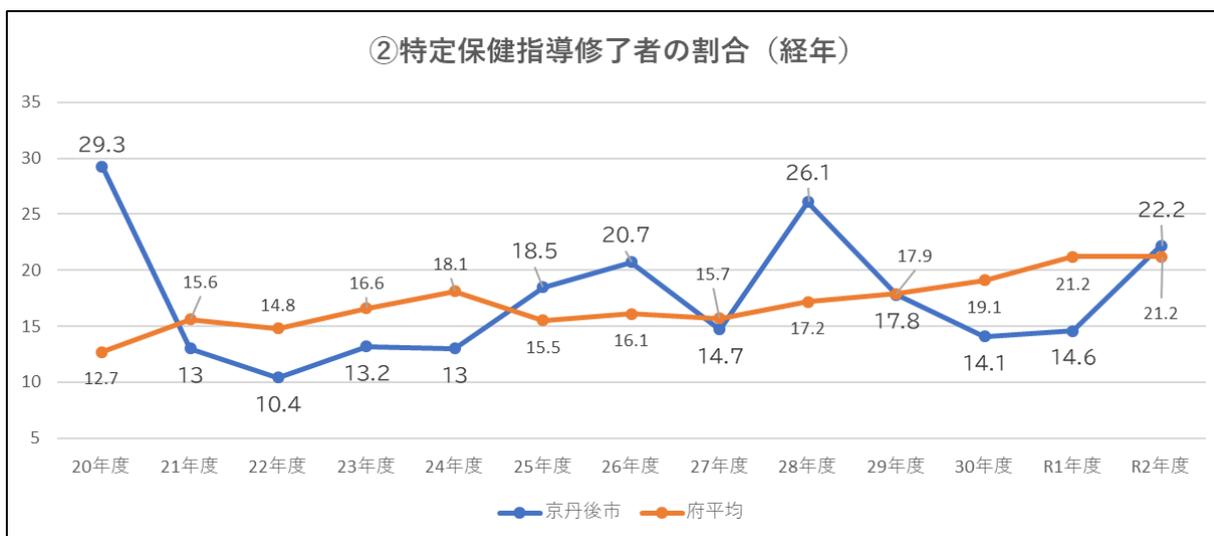
### 1. 特定健康診査受診率の推移 (法定報告結果)

京都府平均と比べると、高い受診率である。平成 30 年度、令和元年度は増加していたが、令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で受診率は減少した。(府下 22 位)



### 2. 特定保健指導終了者の割合の推移 (法定報告結果)

初年度は京都府平均を上回る実施率であったが、翌年度から減少し、25年度から再び府平均を上回っている。29年度からは減少していた実施率は、令和2年度には増加した。(府下 14 位)



※27・28年度は入力もれがあり 27年度終了者を 28年度に入力したため、法定報告と実際の実施率が異なる。

### 3. 特定健診・特定保健指導実施結果（法定報告結果）

#### (1) 内臓脂肪症候群該当者割合推移

府下市町村と比較するとメタボ該当者は、例年少ないが、徐々に増えている。（府下 22 位）

	20 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	元年度	2 年度
市 (%)	11.4	12.0	12.7	13.3	13.0	15.7	15.9	17.4
府平均 (%)	15.6	15.6	16.0	16.7	17.2	17.6	18.0	18.7

#### (2) 内臓脂肪症候群予備軍該当者割合推移

メタボ該当者は少ないが、予備軍については府下平均より多い状態が続いている。平成 30 年度には減少したが、令和元年度以降増加傾向である。（府下 7 位）

	20 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	元年度	2 年度
市 (%)	11.5	10.7	12.0	12.5	12.4	11.8	12.5	12.7
府平均 (%)	11.3	10.3	10.2	10.1	10.4	10.7	10.9	11.1

#### (3) 高血圧薬の服薬者割合

京都府平均と比較して低い割合であるが、年々増加している。

	20 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	元年度	2 年度
市 (%)	22.9	25.5	25.7	26.0	26.4	27.2	27.7	29.3
府平均 (%)	27.8	30.6	30.7	32.7	32.3	31.3	33.0	33.7

#### (4) 脂質異常症薬の服薬者割合

京都府平均と比較して低い割合であり、平成 29 年度までは横ばいであったが、30 年度から増加している。

	20 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	元年度	2 年度
市 (%)	9.7	13.2	14.3	13.8	13.7	16.2	17.2	23.9
府平均 (%)	17.9	23.3	23.7	25.7	25.8	25.2	25.5	28.0

#### (5) 糖尿病薬の服薬者割合

徐々に増加している。京都府平均と比較して高い割合である。

	20 年度	26 年度	27 年度	28 年度	98 年度	30 年度	元年度	2 年度
市 (%)	6.0	7.0	7.5	7.4	7.1	7.3	7.9	8.2
府平均 (%)	5.1	6.0	6.3	6.7	6.8	7.1	7.1	7.7

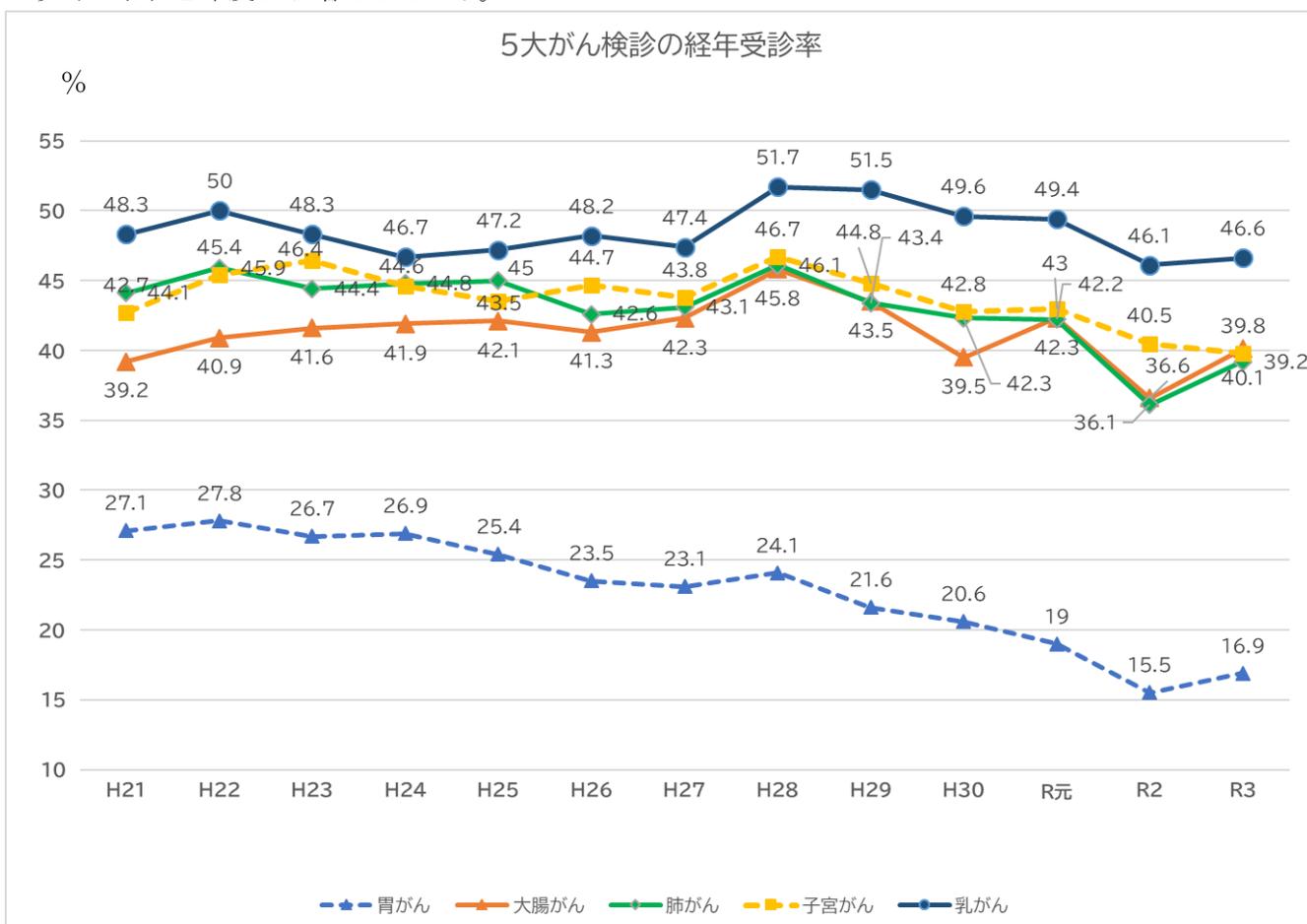
## II その他の主な保健事業について

### 1. がん検診受診率

総合検診として健康診査とがん検診を一度に、すべて無料で受けることができる。

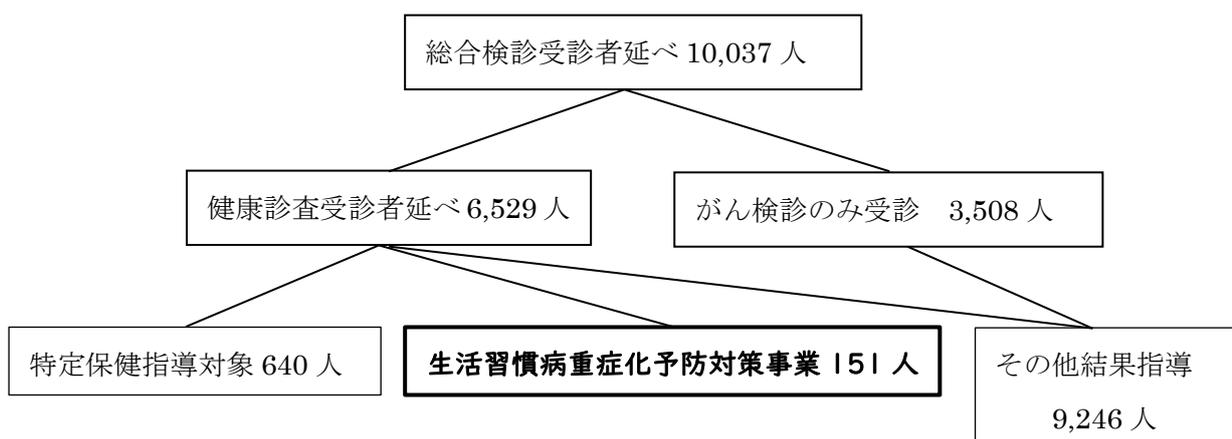
受診率は、府下の市町村と比較すると高いが、平成 28 年度を境に減少傾向である。また、胃がん検診は平成 22 年度以降減少している。

令和 3 年度についても、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会場を地区公民館から体育館へ変更。感染予防を徹底しながら、受診控えのないように工夫をした。受診率は、子宮頸がん検診以外は令和 2 年度より増加している。



### 2. 生活習慣病重症化予防対策事業

- (1) 特定健康診査の結果において、血圧値または血糖値が要医療判定基準を超えている方のうち、医療機関未受診の方へ「保健・栄養指導連絡票」を作成し、受診勧奨を行う。



(2) 糖尿病治療中断者（通院中の患者で最終の受診日から6か月以上経過しても受診した記録がないかた）へは、アンケート調査で受診状況及び未受診の理由を確認し、受診勧奨を実施した。

令和3年8月1日現在の対象者7人中、レセプト等で受診確認できなかった4人にアンケート調査を実施した。

### 3. 健康教室、健康相談

	【令和3年度実績】
検診結果個別指導	41日間：延べ44会場：1,025人指導 個別呼び出しで結果を返却し、個別指導を実施 ※新型コロナウイルス感染予防のため、集団での結果報告会は実施せず。
栄養相談	延べ106人
出前講座	15回：延べ196人 「フレイル予防でいきいき長寿」「食の達人は健康づくりの達人」
出前以外の健康教育	2回：延べ24人：運動講師による運動指導、のびのび体操の紹介

・令和3年度も、出前講座や地区での健康教育等は、新型コロナウイルス感染防止による緊急事態宣言期間中の地区サロンの中止や、体操等の延期などにより、実施の見合わせや中止が多く、実施数はかなり減少している。

### 4. 健康づくり推進員の活動

6期2年目48人。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地区活動は減少したが、推進員各自がチラシの配布やチャレンジウォーキングへの協力など、出来ることの取り組みを実践した。

	【令和3年度実績】
研修会	① 講話「こころの健康」について：参加者38人 ② 講話「健康づくりに活かそう～栄養の話～」：参加者28人 ③ 講話「糖尿病を知ろう～生活習慣で大切なことから」：参加者32人
普及啓発活動	・総合検診受診率向上の取り組み：受診勧奨チラシの配布 ・サザエさん体操の普及活動
地区活動	健康教室等の開催、健康たよりの発行
市の保健事業の参加	チャレンジデー、Let's チャレンジウォーキングへの参加・協力

## 5. Let' s チャレンジウォーキング

市民の運動習慣の定着へのきっかけづくりとして事前に設定したウォーキング月間にウォーキングチャレンジカードを利用して実施。チャレンジカードの提出により、参加証をお渡しした。

令和2年度に引き続きコロナ禍での実施となったが、参加者数は増加傾向にある。

	【令和3年度実績】
日程	【前期】5月1日～6月30日のうち30日間 【後期】10月1日～11月30日のうち30日間
参加結果	【前期】実人数213人：延べ人数227人 【後期】実人数253人：延べ人数271人

## 6. 食生活改善に関する事業

食生活改善推進員を育成するとともに、食育及び健康づくりの観点から食生活改善を進めている。

令和3年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止等のため、調理実習や試食を伴う事業は制限され、食生活改善推進員への研修会等が実施できなかった。

	【令和3年度実績】
食育推進	食生活改善推進員研修会：新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施せず 食生活改善推進員による地域での伝達講習会：上記理由により実施せず 〃 介護予防研修会：レポート研修1回、参加者102人 食文化伝承推進事業：9回開催、参加児童生徒228人、ばら寿司等の調理体験 食育推進ネットワークの開催：誌面会議

## 7. 自殺予防対策

平成30年度に策定した「第2次京丹後市自殺のないまちづくり行動計画」に基づき、「京丹後市自殺ゼロ実現推進協議会」と連携・協働し実施した。

	【令和3年度実績】
ゲートキーパー研修会	6回開催：参加者延べ176人
こころの健康相談 (保健師・臨床心理士)	月1回：延べ43人：実人数12人
街頭啓発	新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施を見送り、相談啓発グッズを各市民局及び図書館、地域公民館、警察署、商工会、消防署等へも配架。また民生児童委員へ地区活動時の配布を依頼。 計1,563部を配架することができた。
自殺予防メッセージ入り クリアホルダーを配付	市内小中高校の卒業生1,255人に配付

## 8. 介護予防体操の普及

健康寿命の延伸のため、高齢者のフレイル（虚弱）予防として、介護予防体操を普及し、各地域で継続実施できるよう支援した。

「☆からだ・寿命・元気☆丹後のびのび体操」（約 40 分）

- ① 市歌に合わせたウォーミングアップ
- ② 筋力トレーニング
- ③ 有酸素運動と二重課題
- ④ クーリングダウン

	【令和 3 年度実績】
地区での取組	<p>① 「介護予防体操教室」週 1 回 3 か月間地区の公民館等で体操を行う。 (新規支援)</p> <p>② 3 か月の教室後、自主的に継続して体操教室に取り組む地区に対して継続支援を行う。</p> <p>【実績】新規：島津地区、竹野地区を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により見合わせたため、0 件 継続：21 地区は自主的に体操に取り組んでいる。 実人数：新規地区・継続地区 合計 252 人</p>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 3 年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、緊急事態宣言およびまん延防止措置期間中の体操自粛をお願いしたことにより、評価指標である体力測定が実施できず、成果の結果は得られていない。</li> <li>・休止をしている間には再開を求めることが多く、再開後は参加者の増加のあった地区もある。</li> </ul>
介護予防体操 代表者交流会	<p>実施地区間の活動についての交流会を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日 時：12 月 20 日</li> <li>・参加者：21 地区中 16 名</li> <li>・実施結果：各地区の活動状況や工夫点が交流できた。</li> </ul>

## 9. 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施に関する事業

令和2年度から新規事業として実施。高齢者の心身の特性に応じた、きめ細やかな支援を実施するため、これまでの生活習慣病対策・フレイル対策としての保健事業と介護予防を一体的に実施し、健康長寿の延伸を目指す。(後期高齢者広域連合から委託)

	【令和3年度実績】
ハイリスクアプローチ (個別支援)	① 重症化予防：健康診査の結果、血圧や血糖値で要医療のかたに、保健師が訪問し保健指導を実施 ② 栄養改善（低栄養）：市の健康診査の結果、低栄養のかたに管理栄養士が訪問し栄養指導を実施 ③ 健康状態不明対策：健康診査や医療未受診、介護認定なしのかたに「健康チェック票」を郵送し、未返信やフレイルリスクの高いかたに保健師が訪問等を行い、健康状態の把握と健康相談や保健指導を実施(実施地区：丹後町・久美浜町) <b>【実施結果】</b> ① 高血圧：116人・109回／高血糖：42人・76回 ② 低栄養：66人・117回 ③ 健康状態不明者：チェック票147人郵送、訪問69人、継続支援12人
ポピュレーションアプローチ(集団支援)	高齢者の通いの場に保健師が出向き、フレイル予防についての健康教育や健康相談を実施。フレイルリスクの高いかた等支援の必要なかたは関係機関と連携し支援 <b>【実施結果】</b> ・フレイル予防講座実施件数：10件(受講人数：144人) ・個別支援を行った人数：0人
<b>【成果と課題】</b> ≪ハイリスクアプローチ≫ ・重症化予防については国保対象事業と一体的に取り組むことができた。 ・個別指導することで個々に応じた相談・指導ができ有効。 ・コロナ禍で、訪問時間の短縮や電話での様子確認を組み合わせるなど、感染予防を行いながらの支援方法を工夫して、対象者全員にアプローチできた。今後はKDBシステムを活用し事業を進めていく。	

## 10. その他

防災行政無線での「ラジオ体操」放送

新型コロナウイルス感染拡大防止のための外出自粛等によるフレイル状態への移行が懸念されるため、令和3年度も引き続き毎日15時に防災行政無線を活用し、ラジオ体操第1を放送した。

(\*猛暑が続いているため、令和4年6月29日から放送休止中。)